課題及び指導改善に向けて

1 調査問題 8 （読んだ内容について適切に応じる問題）

（1）課題が見られた問題について

英語の授業で配布された食糧問題に関する英文を読み、文中に書かれた問いかけ（食糧を無駄にすることをやめるために何ができるか）に対する自分の考えを書く問題です。質問に対して的確に自分の考えや意見を答えることに課題がありました。調査問題5や6の「情報やあらすじを読み取る問題」の結果を見ると、まとまりのある文章についての理解はおよそできていることから、設問を正確に捉え、適切に答えることに課題があることがうかがえます。質問に関連することは答えているが的確な答えになっていない、質問で求められていることは分かるが自分の考えを既習表現を使って表現することができていない、語や文法事項等の誤りがあるなどの誤答が多くありました。

英語の授業で，次のような資料が配られました。これを読んで，文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai*! We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

この問いかけに正対することが正答のカギ

（注）the World Food Programme：世界食糧計画（国際連合の事業）
project：事業　waste：～を無駄にする　rice ball：おにぎり
not only ～, but also …：～だけでなく，…も

【正答に至らなかった解答例①】
理解できる英語で伝えたい内容が書かれているものの、食料を無駄にすることをやめるために自分ができることを示していない解答例

問いかけの内容を繰り返している
・We have to stop wasting food.

単に感想を述べている
・I think the world food programme is very nice project.

解決策になっていない
・We can eat two rice balls.

（2）指導の改善・充実に向けて

既習表現を使い、条件に沿って即興的に友だちと意見交換をしたり、意見を短い文章にまとめたりする活動を継続して行う中で、漠然と自分の考えを発表するだけではなく、問われていることに対して明確な回答を考える機会を設けることが必要です。更に、根拠を示しながら論理的・鋭角的に考えをまとめることや、自分や家族のことなどの身近な話題だけではなく、国内外の様々な社会問題（環境問題・人口問題・経済問題など）に関する話題を定期的に扱い、「自分だったらどのように思うか、考えるか」など、自分の考えや意見を整理して表現する学習も必要だと考えます。対話活動では、相手の話や質問を正確に聞き取り、会話をつなげていく活動も、質問を正しく理解し適切に応じる力を付ける上で有効です。

【正答に至らなかった解答例②】
書き手の考えを伝える上で、大きな支障となる語や文法事項等の誤りがあるため、伝えたい内容が理解できない解答例

文構造の誤り
・We waste not food.

動詞の重複
・I was hope waste food not every day.

2 調査問題 10 （与えられたテーマについて、まとまりのある文章を書く問題）

（１）課題が見られた問題について

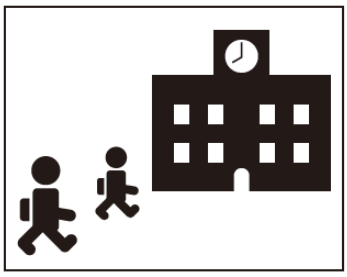
海外のある町が、タウン・ガイドに利用する「学校」を表すピクトグラム（案内用図記号）の案についてウェブサイトで意見を募集している状況で、２つの案のうちどちらがよいかについて両者に触れながら自分の意見を書く、という表現の能力を問う問題です。

正答の条件である 25 語に満たない回答、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項などの誤りのある回答が多く見られました。また、自分が選んだ理由を明確に示せない回答や２つの案に具体的に触れられていない回答も多く見られました。自分の意見や考えはあるものの、既習表現を使いながら条件に沿って正確に文章を書くことに課題があると考えられます。

海外のある町が、外国人旅行客にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す２つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、２つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに 25 語以上の英語で書きなさい。

【Ａ】

【Ｂ】



※　短縮形（I'm や don't など）は１語と数え，符号（ , や ? など）は語数に含めません。

（例）　No,　　I'm　　not.　【３語】

≪正答の条件≫
(ⅰ) どちらの案がよいか、一つを選んで意見を書いている
(ⅱ) 選んだ理由等について、二つの案に触れながら書いている
(ⅲ) 25 語以上の英語で書いている

【正答に至らなかった解答例①】
正答の条件(ⅰ)、(ⅱ)、(ⅲ) を満たして解答しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがある解答例

I'm A better than B. Because I think A picture can many people anderstant. But B picture looks libraries. And A picture have teacher and students study there. So A picture is best.

【正答に至らなかった解答例②】
正答の条件(ⅰ)、(ⅲ) を満たし、条件(ⅱ) を満たさないで解答している例

I think good picture is A. Becouse teacher's have a books and many student. teacher is at the write bood. I think of class room.

【正答に至らなかった解答例③】
正答の条件(ⅲ) を満たさないで解答している例

・I think that A. Because school is teaching.
・I think that is best A than B. A is students and teacher study.

（２）指導の改善・充実に向けて

生徒質問紙の「スピーチやプレゼンなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたか」の問いに対して「当てはまる」の答えが全国より 15 ポイント低いことから、自分の考えをまとめて発表したり説明したりする場面をさらに積極的・継続的に授業に取り入れ、アウトプットの力を付けていくことが必要です。その際、個人の感想を伝えたり要望を尋ねたりする活動や日本文の英訳といった単純な練習だけではなく、状況を文章や図・写真などを使って示し、既習表現を自ら選択して使用していく練習が必要です。一つの表現に固執せず、平易な表現での言い換えや、複数の平易な文を結び付けて説明をするなど、表現の幅を広げる練習も有効です。口頭での活動の後に、細かな誤りの確認や生徒同士での添削などの書く活動を行い、語や文法事項などの定着を図る授業展開や指導も必要となってきます。また、単元テストや定期テストの出題を工夫し、生徒の既習表現を活用しようとする意識を高めていくことも大切です。更に、自分の考えや立場を明確にし、理由をつけて論理的にまとめて説明できる力を養うためには、他教科と連動して力を伸ばしていくことが必要であることから、教科横断的な指導に学校全体で取り組んでいくことが重要です。